外国人の被災体験発信

熊大留学生 ネット活用、冊子も

熊本大（熊本市中央区）の留学生グループが、熊本地震で被災した外国人の体験談を集め、インターネットで発信している。地震発生時に困ったことなどのアンケートにも取り組んでおり、結果を冊子にまとめて県内の外国人に配布する。

外国人の熊本地震被災体験をインターネットなどで発信する留学生グループ「KEEP」のアンドリュー・ミッチェルさん（右）とカイ・ザー・ウィーン・ミンさん＝熊本市

熊本大政策創造研究教育センターの上野眞也教授(61)が、外国人の地震体験を記録として残し、今後のために役立てようと活動を提案。英国、ミャンマー、パプアニューギニアの留学生5人が「KEEP（キープ）」というプロジェクト名で、昨年5月に活動を始めた。

5人は、留学生仲間ら在熊外国人にインタビューしたほか、原稿を募集。「学校が避難所になることを知らなかった」「バスの時刻表の日本語が読めず、移動できなかった」「食料や水を得る方法が分からなかった」など、外国人が直面した困難をキープが運営するブログとフェイスブックに英語で掲載している。被災した熊本城や益城町の倒壊家屋などの写真も添えた。

アンケートは、どこで地震に遭遇したかや地震発生時に困ったこと、どういう助けがほしかったかなどを聞いた。英語表記の冊子を千部製作し、今月末に配布する予定。

英出身で代表のアンドリュー・ミッチェルさん(32)は「外国人に役立ててもらうと同時に、外国人が置かれた状況を日本人に知ってほしい」と話している。

（九重陽平）

掲載日:2017/02/17 面名:三社 ページ:028 熊本日日新聞 :朝刊